

フィラリア症予防をしよう！

暖かい日が続き散歩に行く機会も増えるこの季節、過ごしやすいとはいえ『蚊』の発生が気になるかと思えます。今回はその蚊が媒介するフィラリア症についてご紹介します。



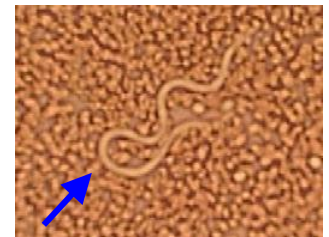
《フィラリア症の基本 Q&A》 心臓に寄生したフィラリア成虫→

Q：どんな病気なの？

A：蚊が媒介する寄生虫病です。感染犬の血を吸った蚊に刺されることで感染し、多数の成虫が心臓に寄生すると様々な症状が出ます。重度の感染の場合は死にいたる怖い病気です。
□咳が出る □元気がない □呼吸が苦しい □食欲がない □お腹が膨らむ □尿が赤い

Q：予防薬（駆虫薬）はいつ飲むの？

A：春から秋（5月末～11月末）にかけて毎月1回薬を飲めばほぼ100%予防できます。では蚊の発生時期と投薬時期に1ヶ月のずれがあるのはなぜでしょうか。フィラリアは体内で脱皮をしながら成長するのですが、この薬は感染して「1ヶ月後の幼虫」でないと十分に駆除できないのです。よって蚊がいなくなっても必ず1ヶ月後に薬を飲んで駆虫する必要があります。



フィラリアの子虫

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
蚊の発生期間							
	投薬期間(月1回)						

※投薬の前に必ずフィラリアが感染していないかの検査を受けましょう。万が一感染している場合に駆虫薬を飲むとショックなどの副作用を起こす場合があります。

Q：フィラリアに感染するのは犬だけなの？

A：いいえ。猫やフェレットなどにも感染します。感染した場合に無症状のことが多いですが突然死する場合があります。診断が難しいため予防が大切です。

お知らせ

イベルメック登場！

～おいしくなりました～
フィラリア症予防薬の「カルドメック」に変わるお薬です。成分や効能はそのままです。



詳しくはスタッフへ

獣医師 内藤

《お知らせコーナー》

5月の休診日

10, 17, 22, 24, 31日

・午後休診日

8, 12, 15, 19, 26, 29日

・院長不在日

11, 13, 15, 16, 21, 25, 29日

14日(amのみ)

ホームページ <http://www.sakura-komoro.jp>

携帯でもさくら動物病院のサイトにアクセスしていただけるようになりました！

詳しくはこちら→

大好評いただいています！



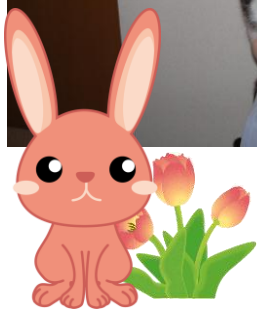
新人紹介コーナー☆



今年の春は、獣医師と動物看護師がそれぞれ2名ずつ、入社しました！
これから皆様の診察や入院の管理をさせていただく機会もあると思いますので、
ここでは一人一人自己紹介をしてもらいたいと思います(^▽^)♪



獣医師の牛込直人と申します。
先輩方のように一人前のスタッフになれるよう
にがんばります。
森を歩いたり、山を登ったり、とにかく
自然の中で過ごすことが大好きです。
よろしくお願いします。



春からさくら動物病院に入社した、獣
医師の宮地すばると申します。
まだまだ未熟者ですが、新人らしく
明るく笑顔を忘れずに、少しでも皆様
のお力になれるよう努力していき
ます！
どんな動物も大好きですが、特に
うさぎが好きです。
よろしくお願いいたします！



この春からさくら動物病院で働
く事になりました。動物看護師
の大平沙紀です。小さい頃から
動物が大好きでこの仕事に就く
ことがずっと夢でした！！
いつでも笑顔で、みなさんの力
になれるように頑張りますので
よろしくおねがいします！！





4月からさくら動物で働かせていただいている、新入社員の看護師兼トリマーの和田和也と言います！

趣味と言えるほどではありませんが…休日にドライブなどもします。

それに、すごく手の凝ったものはできませんが、料理をするのが好きでよく作っています。

まだ専門学校を卒業したばかりで、何かと至らない所もあると思いますが、常に笑顔だけは絶やさずに頑張っていますので、これからよろしくお願ひします。



桜の木を移植しました！



《第一駐車場から見た桜の木》

※軽井沢の「しいある倶楽部」さんのご協力により、今回の移植に至りました。

《咲き始めの様子》



第5回さくらスクールテーマ決定!!

8月28日(日)に開催予定の「第5回さくらスクール」のテーマが決定しました！今回は「眼の病気」と「ダイエット」の2本立て!!

さらに、さくら動物病院10周年企画「高齢犬、高齢猫の表彰式」も併せて行う予定です。毎回大好評の「院長への質問コーナー」もありますので、皆様楽しみにしていて下さい(^_^) 詳細については決まり次第お伝えしていきます。参加ご希望の方はお気軽にスタッフまで☆

眼科の「ワンチャンス」

先日、東京で開催された国際眼科セミナーに参加してきました。眼科は当院では力の入れている分野の一つで、大変奥の深い科目なのです。動物は人間のように「目が痛い」とか「目がかすむ」などと細かく伝えてくれません。

症状：「目が細い」「目やにが多い」「目が赤い」「ぶつかる」「涙が多い」

などの症状が出てから初めて病院に来ることがほとんどです。しかも緑内障のように高眼圧になると「元気がない、怒りっぽい、食欲がない」等の漠然とした症状から始まり、オーナーが気付く「目が大きくなった」という症状は、いわゆる「牛眼」といって完全に失明して選択肢は、「眼球摘出」か眼球を温存するのであれば「シリコン義眼挿入術」しかありません。つまり眼科疾患は誰もが気付く症状の時はほとんどの場合末期的な状態です。私たち動物病院はちょっとした症状（目が細い、目やに、目が赤い）で来院した時が最初で最後の「ワンチャンス」、診断名という結果を出さなければならないのです。ちなみに緑内障の初期症状は目が少し赤い結膜炎様の症状しかありません。でもここで診断しないと失明してしまいます。

以上の様に大変シビアな分野なので、現在私は月に最低でも1～2回自らの知識の確認、更新のため眼科セミナーに通い、スタッフの伝達セミナーをおこたりません。

なぜなら、「ワンチャンス」逃さないように。



《白内障を起こしている眼》



《正常な眼底像(眼の奥の網膜の部分)》

院長

編集後記

小諸でもようやく桜が咲いて、春らしさを感じる事が出来るようになってきました♪
桜は私の一番好きな花ですが、すぐに散ってしまうのが切ないところでもあり、またそこが桜の儚さを実感できる良いところでもあるのかな…と感じます。

今年度、さくら動物病院は桜の木と4名の新人を新しく迎え、いよいよ10年目に突入します。
今後もたくさんの幸せの一助になるべく、日々の診察や動物達のケアを行っていきますので、よろしくお願い致します(*^_^*)

獣医師 山浦